

## 塾 初中級コース3回目を開講 専用CADのBIM連携を学ぶ

東京鉄構工業協同組合 (略称・東構協) の青年経営者委員会 (幹事長 松田一朗・松田鋼業社長) が主催する若手経営者・技術者育成プロジェクト、「東構塾」(塾長 青野弘毅・元那須ストラクチャー工業) は14日、東京都中央区の東構協会議室で第7期初中級

コースの3回目の講義を開講、同コースに所属する塾生ら10人が出席した。当日は2部構成で、第1部は青野塾長が社内標準化をテーマに講義。第2部はドッドウエル ビー・エム・エスの鉄骨専用CADシステム「S/F REAL」におけるBIM活用について学んだ。

ついて学んだ。

第1部の講義で青野塾長は「種々の作業の統一化と単純化を図り、標準類にまとめることを社内標準化という」と説明してその重要性を強調。目的は「安全性を高め、所定の品質の製品を製造し、短時間で作業を行い、できる限り原価を低減するため」で、「見積もり、業務材料手配、工

作図の書き方、製作方法、検査方法、塗装、仕分け、

輸送など製造部門に限らず業務ごとに標準化は必要とされ、対象は広範囲かつ多項目にわたる」とした。第2部では「S/F REAL」とBIMとのデータ連携を中心にデータロジックの藤田茂明・システム営業部長が各種機能や操作方法を説明。IFCファイルを紹介して建築BIMや設備CADとのデータ互換が可能で、「設備CADから読み込んだスリーブ情報

を基に正しく適用できるかどうかをチェックできる」など作業の効率化につながるメリットを紹介した。



第7期初中級コースの3回目を開講